

事 業 概 要

事業概況

市民の保健衛生に係る諸問題へのアプローチとして、多方面にわたる調査研究を積極的に推進し、多くの成果をあげている。

細菌・ウイルス検査部門では、57年10月に発生した、飲料水の細菌汚染による大規模食中毒事件を踏まえて、昭和58年度以来水質検査部門と合同で本市の排水路等における食中毒菌などの調査を実施しているが、本年度もこれを実施した。細菌検査として腸管系病原菌、コレラ菌、食品細菌を、ウイルス検査としてインフルエンザ、風疹抗体価などを実施した。

臨床検査部門では、昭和52年以来、先天性代謝異常、小児がん神経芽細胞腫、先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングを実施し、新生児112名を患者を発見し、早期治療に結びつけるなど大きな成果をあげている。また昭和61年より、妊婦甲状腺機能検査を実施し55名の患者を発見し母子保健の向上に努めている。

環境検査部門では、飲料水、プール水、公衆浴場水、繊維製品や家庭用洗剤などの家庭用品の検査、寒冷地における一般家庭の住居衛生に関する調査を実施している。

食品検査部門では、乳、乳製品、清涼飲料水、容器包装の規格検査、食品中の添加物、重金属、残留農薬、抗菌剤検査のほか、厚生科学研究の「食品添加物1日摂取量調査」に参加し、プロピレングリコールの摂取量調査を実施し、さらに地研協議会による食物繊維の分析にも参加した。

大気検査部門では、降下ばいじん、重油中のいおう分測定、雨水成分、悪臭物質、アスベスト等の未規制物質の検査を行っている。本年度は環境庁の委託業務として「未規制大気汚染物質モニタリング」を行い、工場等を中心に大気中のアスベスト濃度を測定した。また、近年、大きな社会問題となっているスパイクタイヤによるアスファルト粉じん調査については、昭和59年度から第3次5カ年計画により、公害部とともに一般環境中の調査を行っている。

水質検査部門では、河川水、鉱山排水、工場排水、地下水、水遊場、湖沼、アスファルト粉じん河川底質、還元井、事業所排水、工事に伴う排水等について水質又は底質の検査を行い、水質に関する相談にも応じている。また、調査研究の一環として、化学物質分析法開発調査に関する環境庁委託業務も実施している。

本所における昭和62年度の試験検査状況は表1、表2のとおりである。

表 1 試験検査実施件数

昭和62年度

検査内訳			件数	検査内訳			件数		
細菌検査	分離・同定	腸内細菌	943	飲料水検査	水道水	細菌学的検査	27		
		レンサ球菌	—			理化学的検査	27		
		ジフテリア菌	—			浄水	細菌学的検査	342	
		その他の細菌	220			理化学的検査	692		
	血清検査	—	井戸水		細菌学的検査	803			
	化学療法剤に対する耐性検査	—	理化学的検査		961				
	動物試験	—	その他		細菌学的検査	60			
ウイルス・リゲッチャア検査	分離・同定	ポリオ	—		理化学的検査	67	利用水	細菌学的検査	33
		日本脳炎	—		理化学的検査	61		細菌学的検査	455
		インフルエンザ	150		理化学的検査	733		生物学的検査	—
	血清検査	ポリオ	—	下検査関係	し尿	細菌学的検査	—		
		日本脳炎	—				理化学的検査	—	
		インフルエンザ	12	清掃関係	その他	生物学的検査	—		
	その他のウイルス・リゲッチャア	1,109	その他			—			
動物試験	—	公害関係検査	大気	SO ₂ ・NO・NO ₂ ・O _x ・CO	—				
結核	培養検査			70	浮遊粒子状物質(粉じんを含む)	214			
性病	梅毒			2,205	降下ばいじん	1,559			
	淋病		—	その他	1,149				
	その他		—	河汚川濁	理化学的検査	577			
寄原生虫	寄生虫		579	理化学的検査	492				
	原虫類		58	その他	1,199				
	殺虫剤効力・耐性		—	一環般境	一般室内環境	—			
その他	—		浴場水・プール水		120				
食中毒	細菌学的検査		537	放射能	雨水・陸水	—			
	理化学的検査	—	食		—				
臨床検査	血液	血液型	—		その他	—	温泉(鉱泉)泉質検査	—	
		血液一般検査	14	家庭用品検査	特殊栄養食品	—			
		生化学検査	3,044		その他	—			
		先天性代謝異常検査	18,951		その他	—			
		その他	60,607	その他	—				
	尿	15,893	薬品養	その他	—				
	便	—		その他	—				
病理組織学的検査	—	食品検査	細菌学的検査	1,148					
その他	—		理化学的検査	1,160					
その他	—		その他	—					

(注) 厚生省報告例による。

表2 依頼者別試験検査検体数

区分	検査項目	総数	細菌検査	ウイルス検査	リケッチア検査	結核	性病	寄生虫・原虫	食中毒	病(①から⑨を除く)の 生理・生化学検査	食品検査	水質検査	下水関係検査	清掃関係検査	公営関係検査	一般環境	放射能	温泉(鉱泉)泉質検査	家庭用品検査	薬品	栄養	その他	
		保健所 (検査室)	24,642	586	517	—	70	2,205	332	537	18,951	1,186	258	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
依頼によるもの	保健所以外の 行政機関	555	—	—	—	—	—	—	—	417	121	—	—	—	—	17	—	—	—	—	—	—	—
	医療施設	80,383	2	613	—	—	—	—	79,558	—	210	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	学校及び 事業所	2,113	310	—	—	—	259	—	—	345	1,087	—	—	—	17	95	—	—	—	—	—	—	—
	その他	360	47	—	—	—	46	—	—	3	264	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	自ら行うもの	5,777	218	142	—	—	—	—	—	357	456	—	—	—	4,439	—	—	—	165	—	—	—	—

資料：厚生省報告例第13表

1 微生物検査

微生物検査係では、市民からの依頼と関係法令（伝染病予防法、食品衛生法等）に基づく行政サイドからの依頼により細菌、ウイルスの病原微生物を中心に検査を行う一方、これらに係わる調査研究を実施している。

昭和62年度における微生物検査の実施状況は表1のとおり、検体数4,529、延べ検査項目数11,402であった。主な業務内容は、次のとおりである。

(1) 細菌検査

ア 腸管係病原菌検査

法定伝染病原菌の検査依頼は、943検体あり、便の培養検査を行った。このうち、防疫検便から赤痢菌4株、サルモネラ菌（腸チフス）1株を検出した（表2）。

この検査依頼の中で、海外旅行者56人の主な腸管系病原菌の検出状況は、赤痢菌4人の他、病原大腸菌17人、サルモネラ菌6人であった（表3）。

また、食中毒、海外旅行者等から分離したヒト由来サルモネラ菌は、25種類の血清型に分別された（表4）。

イ 食品細菌検査

行政機関及び一般事業者から819検体の検査依頼があった。このうち行政機関の依頼は全体の8割であった（表5）。検査項目では、今年度も生菌数、大腸菌群の依頼が多かったが、食中毒菌のなかでは、黄色ブドウ球菌、セレウス菌がそれぞれ256検体、154検体と多かった（表6）。

ウ 細菌性食中毒検査

食中毒の疑いで70件、延べ537検体について細菌検査を行った。このうち、衛生管理部が食中毒と認定したものは、6件あり、原因菌としては、サルモネラ菌が2件、カンピロバクターが1件、黄色ブドウ球菌が1件であった。なお、原因菌不明の食中毒が2件あり、同一施設で起きたものであった（表7）。

エ 結核菌検査

保健所の管理検診、住民検診等による70検体について喀痰検査を行った。なお、塗沫、培養検査における陽性者はいなかった。

オ コレラサーベイランス

昭和53年11月から本市におけるコレラ防止対策に万全を期すため実施している。昭和62年度は、下水処理場の流入水、汚泥水各々48検体について検査を行った。その結果、コレラ菌（O-1）は検出しなかったが、いわゆるNAGビブリオ菌が流入水で6検体（12.5%）、汚泥水で5検体（10.4%）検出した（表8）。なお、NAGビブリオ菌検出率はここ数年減少傾向にある。

カ 排水路水等環境調査

昭和57年10月に、飲料水汚染による大規模食中毒事件（患者数7,700余人）が発生したが、この教訓により、昭和58年4月から衛生行政の一助とするため、市内全域にわたり排水路水および河川中の食中毒菌の調査を行ってきた。昭和62年度は、調査地点数21、検体数122、延検査項目数1,586について行い、その結果、ウエルシュ菌（98%）、セレウス菌（81%）、エロモナス菌（75%）が昨年と同様高濃度に検出した（表9）。

(2) ウイルス検査

ア インフルエンザ流行調査

昭和62年12月中旬，市内中学校でカゼ症状による集団欠席があり，6名中1名のうがい液からインフルエンザA香港型が分離された。また，市内医院からの咽頭ぬぐい液からも同型が分離された。その後，2月中旬に市内医院で採取した咽頭ぬぐい液からインフルエンザウイルスB型が検出され，A香港型が前半の，またB型が後半の流行の主流となった。

イ 風疹抗体価検査

市内7保健所及び医療機関からの依頼により，妊婦を主とする成人女性を中心に，1,107検体について風疹抗体価の検査を行った。抗体陰性者は22.6%であった。

ウ トキソプラズマ抗体価検査

市内7保健所から依頼のあった58検体について，ラテックス凝集法によりトキソプラズマの抗体価の検査を行った。抗体陽性者は10.3%であった。

表 1 微生物学的検査実施数

昭和62年度

区 分		検 体 数	延 検 査 項 目 数
便	腸管系病原菌	943	2,043
	寄生虫卵	579	579
結	核 菌	70	140
食 中 毒	便・吐物	250	1,500
	食品	202	1,458
	関連材料	85	410
食	品 衛 生 細 菌	819	2,227
ウ イ ル ス	分 離	186	186
	血 清	12	12
	風 疹	1,107	1,107
ト キ ソ プ ラ ズ マ		58	58
下 水	腸管系病原菌	96	96
排 水 路 水 等		122	1,586
総 数		4,529	11,402

表2 法定伝染病病原菌検査状況

昭和62年度

項目 区分	赤痢菌		サルモネラ菌 (腸チフス, パラチフスA)		コレラ菌	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数
保健所クリニック	286	0	286	0	0	—
防 疫	300	4 ¹⁾	300	1 ²⁾	148	0
そ の 他	357	0	357	0	0	—
総 数	943	4	943	1	148	0

1) 血清型：C-18(1), D-1(3)

2) 腸チフス(血清型 O9[Vi]:d:—, フェージ型D1)

表3 海外旅行者の腸管病原菌検出状況

昭和62年度

年月	検査者数	陽性者数	菌 種 名 ²⁾							検出菌種数	混合感染菌種
			赤痢菌	サルモネラ菌	病原大腸菌 ¹⁾	腸炎ビブリオ	ビブリオフィルピリス	プレオモナス菌	カンピロバクター		
62.4	9	2	1					1		2	
5	1	1							1	1	
6	5	4		1			1		3	5	Sal(O4)+Campylo
7	0	—								—	
8	10	1	1							1	
9	5	2	2							2	
10	1	1			1					1	
11	10	6		2	5(3)			2		9	{ Sal(O7)+Plesiomonas Sal(O3,10)+Plesiomonas+EPEC(O126)
12	2	1				1				1	
63.1	2	0								—	
2	4	2		3						3	Sal(O8)+Sal(O8)
3	7	2			1(1)				1	2	
総数	56	22	4	6	7(4)	1	1	3	5	27	
検出率(%)		39.3	7.1	10.7	12.5	1.8	1.8	5.4	8.9		

1) カッコ内は毒素原性大腸菌(LT,ST産生)の再掲

2) 重要病原菌の血清型(デンカ生研 診断用免疫血清)

赤痢菌； C-18(1), D-1(3)

サルモネラ菌； O7(2), O8(2), O9(1), O3, 10(1)

病原大腸菌； O27:K+(1), O44:K74(1), O126:K71(3), O148:K+(1), O159:K+(1)

腸炎ビブリオ； O3:K33(1)

表4 ヒト由来のサルモネラ菌型

昭和62年度

血清型 ¹⁾	菌型	海外 旅行者	一般	医療機関 ²⁾	食中毒	計
O4:b:1, 2	S. paratyphi B			1		1
O4:b:—	S. II [sofia]			1		1
O4:f,g,s:—	S. agona			2		2
O4:i:1, 2	S. typhimurium			11	11	22
O4:r:1, 2	S. heidelberg			2		2
O4:—:—	S. O4 群H 不明			1		1
O7:b:Lw	S. ohio		1			1
O7:d:1, 5	S. isangi		1			1
O7:eh:en,z ₁₅	S. braenderup			3		3
O7:g,m,s:—	S. montevideo	1				1
O7:k:1,5	S. thompson			1		1
O7:Lv:en,z ₁₅	S. potsdam	1				1
O7:r:1,2	S. virchow			4		4
O7:r:1,5	S. infantis			1		1
O7:z ₁₀ :en,z ₁₅	S. mbandaka			8		8
O8:eh:1,2	S. newport			2		2
O8:g,m,s:—	S. emek	1				1
O8:k:1,5	S. blockley	1				1
O8:Lv:1,2	S. litchfield			1		1
O9[Vi]:d:—	S. typhi		1			1
O9:Lv:1,5	S. panama	1		1		2
O3,10:Lv:1,6	S. london				16	16
O3,10:z ₁₀ :1,5	S. lexington	1				1
O13:f,g:—	S. havana			2		2
O18:z ₄ ,z ₂₃ :—	S. cerro			1		1
計		6	3	42	27	78

1) デンカ生研診断用免疫血清

2) 病院検査室、臨床検査所より菌株送付のあったもの

表 5 食品細菌検査依頼別検体数

昭和62年度

検体種別	依頼先 総 数	行 政 機 関		一 般
		保 健 所	衛 生 管 理 部	
牛 乳, 加 工 乳	35	17	6	12
魚 介 類	65	0	43	22
冷 凍 食 品	39	10	13	16
魚 介 類 加 工 品	99	47	30	22
肉 卵 類 加 工 品	169	115	35	19
乳製品, 乳類加工品	58	27	30	1
アイスクリーム, 氷菓	28	14	10	4
穀類及び加工品	70	5	65	0
野菜, 果物及び加工品	18	13	3	2
菓 子 類	46	34	0	12
清 涼 飲 料 水	38	0	28	10
氷 雪	6	5	0	1
そ の 他	148	88	29	31
総 数	819	375	292	152

表 6 食品細菌検査項目内訳

昭和62年度

検体種別	検査項目 生菌数	大腸 菌 群	食 中 毒 起 因 菌					腸 炎 ビブリオ	その他	総 数
			黄色ブド ウ 球 菌	セレウス 菌	サルモネラ 菌	ウエルシュ 菌				
牛 乳, 加 工 乳	35	35	0	0	0	0	0	0	70	
魚 介 類	65	64	1	0	0	0	44	68	242	
冷 凍 食 品	39	39	0	0	0	0	0	0	78	
魚 介 類 加 工 品	21	99	1	0	0	0	15	0	136	
肉 卵 類 加 工 品	80	167	75	0	75	0	0	61	458	
乳製品, 乳類加工品	23	45	0	0	0	0	0	27	95	
アイスクリーム, 氷菓	28	28	0	0	0	0	0	0	56	
穀類及び加工品	70	70	5	70	0	0	0	0	215	
野菜, 果物及び加工品	4	18	1	0	0	0	14	0	37	
菓 子 類	44	45	41	1	1	1	0	1	134	
清 涼 飲 料 水	1	37	0	0	0	0	0	0	38	
氷 雪	6	6	0	0	0	0	0	0	12	
そ の 他	144	141	132	83	65	87	0	4	656	
総 数	560	794	256	154	141	88	73	161	2,227	

表 7 細菌性食中毒発生状況

昭和62年度

発生 番号	発 生 年月日	摂食 者数	患者数	原因食品	便		食 品		関連材料		原 因 菌
					検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数	
1	62. 6. 9	不明	102	不 明	40	0	28	0	22	0	不 明
2	6. 12	475	149	不 明	15	11	0	0	0	0	サルモネラ菌 (S.typhimurium)
3	6. 23	不明	139	不 明	81	0	60	0	37	0	不 明
4	8. 28	131	48	中華前菜	19	9	10	0	15	0	サルモネラ菌 (S.london)
5	11. 27	不明	3	不 明	7	3	3	0	7	0	カンピロバクター ジェジュニ
6	12. 18	5	3	生 寿 し	4	3	3	1	7	0	黄色ブドウ球菌 (コアグラセⅢ型)

表 8 下水処理場のコレラ菌サーベイランス

昭和62年度

採水場所	検 体	流 入 水		汚 泥 水		計	
		検体数	陽 性*	検体数	陽 性*	検体数	陽 性*
新川下水処理場		12	0 (2)	12	0 (1)	24	0 (3)
創成川下水処理場		12	0 (3)	12	0 (2)	24	0 (5)
豊平川下水処理場		12	0 (0)	12	0 (1)	24	0 (1)
厚別下水処理場		12	0 (1)	12	0 (1)	24	0 (2)
総 数		48	0 (6)	48	0 (5)	96	0 (11)

* カッコ内はN A Gビブリオ

表 9 排水路等環境調査

昭和62年度

区 分 (対 象) (地点数)	検体数	検 査 項目数	病 原 菌 検 出 数 (%)							
			ウェルシュ 菌	セレウス 菌	エロモナス	N A G ビブリオ	サルモネラ	黄色ブド ウ球菌	病 大 腸 原 菌	ビブリオ・ フルビ アリス
排水路数 (12)	68	884	66 (97)	53 (78)	47 (69)	3 (4)	5 (7)	14 (21)	5 (7)	1 (1)
河川水 (9)	54	702	54 (100)	46 (85)	45 (83)	25 (46)	12 (22)	2 (4)	3 (6)	0 (-)
総 数 (21)	122	1,586	120 (98)	99 (81)	92 (75)	28 (23)	17 (14)	16 (13)	8 (7)	1 (1)

2 臨床検査

臨床検査係では、従来から行っている一般臨床検査に加え、行政方針として昭和52年度から全国に先がけて、新生児の先天性代謝異常等のマス・スクリーニングを実施し、62年度までに221,533人の検査を行い先天性代謝異常症38人、先天性甲状腺機能低下症36人、先天性甲状腺ホルモン結合たん白欠損症10人、先天性副腎皮質過形成9人、計93人を発見したほか、56年度から乳児を対象に神経芽細胞腫マス・スクリーニングを実施し、62年度までに104,780人の検査を行い19人を、合計112人の患児を発見し早期治療に結びつけるなど大きな成果をあげている。

〔業務報告〕

61年度の主な業務内容は下記のとおりである。

(1) 一般臨床検査

一般臨床検査は、行政及び市民からの依頼によるもので、検査件数は7,617件である。内訳は、性病予防法に基づく結婚・妊娠時や健康診断受診時の梅毒検査並びにHB抗原抗体検査がほとんどである(表1, 2)。

(2) 先天性代謝異常マス・スクリーニング

市内で出生した全新生児を対象に血液ろ紙を用いて検査を行った。検査件数は18,951人である。検査内容は、フェニールケトン尿症、ガラクトース血症、ヒスチジン血症、ホモシスチン尿症、メイプルシロップ尿症の5種目で、北大、医大のコンサルタントによる精密検査の結果4例がヒスチジン血症と診断された。62年度までの総検査件数は216,560件であり、その発見頻度は1/5,830である(表3)。

(3) 先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)マス・スクリーニング

53年6月から、市内で出生した全新生児を対象に血液ろ紙を用いて放射性免疫測定法により検査を行っている。検査件数は18,951件であり、精密検査の結果3例の患児を発見した。

62年度までの総件数は202,274件で、発見頻度は1/5,619である(表3)。

(4) 先天性甲状腺ホルモン結合たん白欠損症(TBG欠損症)マス・スクリーニング

55年5月から、クレチン症と同時に検査を行っている。検査件数は18,951件であるが、患児は発見されなかった。62年度までの総件数は160,264件で、発見頻度は1/16,026である(表3)。

(5) 先天性副腎皮質過形成マス・スクリーニング

57年5月から全新生児を対象に血液ろ紙を用いて酵素免疫測定法により検査を行っている。検査件数は18,951件であり、精密検査の結果2例の患児を発見した。62年度までの総数は118,999件で、その発見頻度は1/13,222である(表3)。

(6) 神経芽細胞腫マス・スクリーニング

56年度から市内に居住する生後6~12カ月の乳児を対象に、尿ろ紙を用いて高速液体クロマトグラフィ法等によって検査を行っている。検査件数は15,893件であり、精密検査の結果、2例の患児を発見した。対象乳児に対する受検率は84%である。62年度までの総数は104,780件で、その発見頻度は、1/5,515である(表4)。

(7) 妊婦甲状腺機能マス・スクリーニング

61年6月から市内の医療機関を受診する妊婦を対象に、血液ろ紙を用い、4項目の検査から甲状

腺機能異常をスクリーニングしている。検査件数は3,754件であり、精密検査の結果、パセドウ病等24例の患者を発見した(表5)。

表1 一般臨床検査状況

昭和62年度

区 分		件 数
血 清	ガ ラ ス 板 法	2,205
	梅 毒 血 球 凝 集 反 応 (T P H A)	2,205
	精 密 検 査 (凝 集 法 , 緒 方 法)	149
	H B s 抗 原 検 査	1,486
	H B s 抗 体 検 査	1,032
	H B e 抗 原 抗 体 検 査	526
血 液	血 液 一 般 検 査	14
総 数		7,617

表2 HBs抗原抗体検査陽性率

昭和62年度

区 分	検 体 数	陽 性	陽 性 率
H B s 抗 原 検 査	1,486	66	4.4 %
H B s 抗 体 検 査	1,032	141	13.7

表3 先天性代謝異常等検査状況

昭和62年度

区 分	件 数	再検査数	精密検査	患 者 数	
血 液 ろ 紙	フ ェ ニ ー ル ケ ト ン 尿 症	18,951	19	1	0
	ガ ラ ク ト ー ス 血 症	18,951	27	0	0
	ヒ ス チ ジ ン 血 症	18,951	2	4	4
	ホ モ シ ス チ ン 尿 症	18,951	8	1	0
	メ イ プ ル シ ロ ッ プ 尿 症	18,951	5	0	0
	ク レ チ ン 症	18,951	223	21	3
	T B G 欠 損 症	18,951	61	2	0
	先 天 性 副 腎 皮 質 過 形 成	18,951	103	6	2
総 数	151,608	448	35	9	

表4 神経芽細胞腫スクリーニング検査状況

昭和62年度

区	分	件数	再検査数	精密検査	患者数
	神経芽細胞腫検査(尿ろ紙)	15,893	63	4	2

表5 妊婦甲状腺機能検査状況

昭和62年度

区	分	件数	再検査数	精密検査	患者数
	妊婦甲状腺機能検査(血液ろ紙)	3,754	119	46	24

3 環境検査

飲料水、家庭用品等の安全の確保を図るため、水道法に基づく飲料水検査のほか、遊泳用プール水等の一般環境検査及び有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づく家庭用品検査などの試験検査並びに調査研究を行っている。

このほか、保健所と共同で、ビル等の防錆剤使用実態調査を行った。

今後とも、健康リビング推進のため、飲料水及び住環境などに関する調査研究を行っていききたい。

〔業務内容〕

昭和62年度における環境検査の実施状況は表1のとおりで、検体総数は2,202、総項目数は17,974であった。主な検査内容は次のとおりである。

(1) 飲料水検査

行政、営業者及び一般市民からの依頼により、専用水道、井戸水等の飲料水検査を行っている。

昭和62年度の水質基準適否状況についてみると、依頼の大部分を占める一般検査の検体数と適合率は1,421検体の70%であった(表2)。なお、水質基準に適合しない検体の項目別内訳は、色度、鉄、大腸菌群、濁度の順である(表3)。

また、トリクロロエチレン等による地下水汚染の問題が提起され、当係でも飲用に供する井戸水等の水質検査を本格的に始めた。今後の当係の重要な業務の一つになると予想される。

(2) 一般環境検査

営業者からの依頼により、プール水143検体、延680項目を検査したが、今年度は、水質基準違反はみられなかった。

(3) 家庭用品検査

衛生管理部からの行政依頼により、繊維製品や家庭用品の試買品196検体について、防虫加工剤、防炎加工剤及び有機溶媒等の有害物質延272項目の検査を実施し、外衣のホルムアルデヒド1件に基準違反が認められた(表4)。

表 1 環境検査実施数

昭和62年度

検 査 名		検 体 数	項 目 数
水 質 検 査	一 般 検 査	1,421	14,512
	全 項 目 検 査	63	1,697
	低沸点有機ハロゲン化合物検査	71	216
	特 殊 項 目 検 査	311	591
	計	1,866	17,016
一 般 環 境 検 査	プ ー ル 水 検 査	136	680
	浴 場 水 検 査	4	6
	一 般 室 内 環 境	0	0
	計	140	686
家 庭 用 品 検 査		196	272
総 数		2,202	17,974

表 2 水質基準適否状況

昭和62年度

検査名	適 否		適 (適合率)	否 (不適率)	不 適 の 内 訳			判定保留	合 計
	検体区分				化学・細菌	化学のみ	細菌のみ		
一 般 検 査	水 道 水	原 水	9 (45 %)	11 (55 %)	1	2	8	—	20
		浄 水	308 (69 %)	136 (31 %)	2	121	13	1	445
		小 計	317 (68 %)	147 (32 %)	3	123	21	1	465
	井 戸 水	606 (72 %)	235 (28 %)	23	145	67	—	841	
	そ の 他	46 (73 %)	17 (27 %)	5	4	8	—	63	
	利 用 水	24 (46 %)	28 (54 %)	5	22	1	—	52	
	計	993 (70 %)	427 (30 %)	36	294	97	1	1,421	
全 項 目 検 査	水 道 水	原 水	4 (57 %)	3 (43 %)	—	1	2	—	7
		浄 水	23 (96 %)	1 (4 %)	—	1	—	—	24
		小 計	27 (87 %)	4 (13 %)	—	2	2	—	31
	井 戸 水	19 (73 %)	7 (27 %)	2	5	—	—	26	
	そ の 他	2 (100 %)	0 (— %)	—	—	—	—	2	
	利 用 水	4 (100 %)	0 (— %)	—	—	—	—	4	
	計	52 (83 %)	11 (17 %)	2	7	2	—	63	
総 数		1,045 (70 %)	438 (30 %)	38	301	99	1	1,484	

表3 水質基準不適検体の項目別内訳

昭和62年度

検査名	不適項目		色 度	濁 度	pH 値	臭 気	亜硝酸 性窒素 及び	硝酸 性窒素	塩素 イオン	過カリ ウム 消費 量	マン ガン 酸	鉄	一 般 細 菌	大 腸 菌 群	そ の 他	総 数
	検体区分															
一般 検査	水道 水	原水	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	9	—	13
		浄水	107	21	2	4	—	—	3	72	4	14	—	227		
	井戸水	123	28	3	29	14	3	15	87	29	68	—	399			
	その他	7	4	—	1	—	1	4	5	5	11	—	38			
	利用水	24	15	1	3	—	—	4	17	4	7	—	75			
	計	264	68	6	38	14	4	26	181	42	109	—	752			
全 項 目 検 査	水道 水	原水	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	—	3
		浄水	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	井戸水	3	1	—	4	—	—	—	3	2	1	—	14			
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	利用水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	計	4	1	—	5	—	—	—	3	2	3	—	18			
総数			270	67	6	43	14	4	26	184	44	112	—	770		

表4 水質検査の苦情内訳

昭和62年度

苦 情 内 容		例 数	
	色・濁り	褐色に濁る	7
		色がつく	1
生 水 の 状 態	臭 味	臭 味 が あ る	6
		下 水 臭	3
		金 気 臭	6
		腐 敗 臭	—
		油 様 臭	—
		し 尿 臭	—
	浮 遊 物 沈 澱 物	か び 臭	—
		油 様 が 浮 く	—
		鉄さび状沈澱物	6
		ごみが混じる	—
そ の 他	白色の沈澱物	2	
	砂が沈む	1	
	色・濁り	洗濯物に変色する	—
		泡 立 つ	—
沸 か し た 水 の 状 態	臭 味	容器がさびる	—
		褐色に濁る	2
	浮 遊 物 沈 澱 物	色がつく	1
金 気 臭		1	
	浮 遊 物 沈 澱 物	白色の沈澱物	5
		水あかがたまる	1
		浴槽がさびる	—

表5 家庭用品検査状況

和年62年度

項目	ホルムアルデヒド			塩化水素・硫酸	塩化ビニル	有機水銀化合物	ホスフィンオキシド トリス(一アジリジニル)	デイルドリン	プロピルホスフェイト トリス(二ニジプロム)	トリフェニル錫化合物	水酸化ナトリウム・ 水酸化カリウム	トリブチル錫化合物	ビス(二ニジプロム)プロ ピルホスフェイト化合物	四・六・八・十・十二 シクロペンタゲイ トシクロペンタゲイ トシクロペンタゲイ	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	計
	生後24月の	生後24月の	生後24月の															
試験基件	109	23	132	4	2	3	-	5	2	3	13	3	2	2	7	12	12	202
検査数	1		1															1
違反件数																		
織 維 品	おしめ	5	-	5	-	-	/	-	-	/	-	/	-	-	-	-	-	5
	おしめカバー	5	-	5	-	-	/	-	/	-	1	-	1	-	/	-	-	7
	よだれ掛け	5	-	5	-	-	/	-	-	/	-	/	-	-	-	-	-	5
	下着	15	10	25	-	-	/	-	/	-	/	-	/	-	/	-	-	25
	中衣	21	-	21	-	-	-	/	-	-	-	-	-	-	/	-	-	21
	外衣	1/26	-	1/26	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	/	-	-	27
	手袋	2	2	4	-	-	/	-	/	-	/	-	/	-	/	-	-	4
	くつ下	3	3	6	-	-	/	-	/	-	/	-	/	-	/	-	-	6
	たび	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	帽子	15	-	15	-	-	-	-	/	-	-	-	-	-	/	-	-	15
	衛生バンド	-	-	-	-	-	/	-	-	/	-	/	-	-	-	-	-	-
	衛生パンツ	-	-	-	-	-	/	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
	寝衣	7	5	12	-	-	/	/	/	-	-	-	/	/	-	-	-	12
	寝具	5	-	5	-	-	-	/	1	/	-	-	-	/	1	-	-	7
	床敷物	-	-	-	-	-	-	/	1	1	-	-	-	1	1	-	-	4
	カーテン	-	-	-	-	-	-	/	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2
家庭用毛糸	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	/	-	-	2	
小計	1/109	22	1/131	-	-	-	-	5	2	2	-	2	2	2	-	-	146	
家庭 用 化 学 製 品	家庭用接着剤	-	-	-	-	-	1	-	-	/	-	/	-	-	-	-	-	1
	かつら等の接着剤	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	家庭用塗料	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	3
	家庭用ワックス	-	-	-	-	-	1	-	-	/	-	/	-	-	-	-	-	1
	くつ墨・くつクリーム	-	-	-	-	-	/	-	-	/	-	/	-	-	-	-	-	
	家庭用エアゾル製品	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	12	12	33
	住宅用洗剤	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
家庭用洗剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	/	/	13	
小計		1	1	4	2	3				1	13	1		4	12	12	56	

(注) 分母は試験検査件数、分子は基準違反件数。容器試験を除く。